

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190200214		
法人名	社会福祉法人 唐津福祉会		
事業所名	潮荘グループホーム		
所在地	佐賀県唐津市鎮西町打上3075番地1		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成26年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

計算問題、パズル、漢字の書き取り、そろばん、トランプ等を行い少しでも認知症進行防止に努めている。本人に出来ることを考えて、身の回りの事をして頂き活気ある生活ができるように支援している。身体機能維持の為に毎日体操、歌、機能訓練を行っている又荘外散歩で四季を感じて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海が近く、のどかな風景の中に建つホームである。敷地内には畑、花壇があり、ホーム内からも見ることができ、四季の移り変わりを感じる事が出来る。入居者の方は各個人それぞれのペースで生活されており、その中で、出来る範囲での身の回りの事や、家事等の手伝いなど、スタッフの声掛けにより行われている。近くの保育園との交流もあり、入居者の良い刺激になっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき毎日実践している。毎朝の申し送り時に復唱し、実践に取り組んでいる。	開設時にスタッフで考えた理念があり、ホーム内の目に付くところに掲示し、朝礼で唱和して意識できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの出入りは制限なく何時でも面会ができるようにしているので敷地内の他事業所からの訪問もある。地域の正月行事に参加して交流を行った。	地域行事の鬼火焚き参加や、老人部との交流などを行い、地域との交流が持てるよう取り組んでいるが、日常的な交流はあまりない。	事業所自体が地域の一員として関わられるよう、グループホームの特徴を活かした働きかけをし、地域との交流が深まることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症に対する勉強会を行い、運営推進会議にて委員メンバーに支援の方法等を伝えて理解して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員メンバーに活動報告、入居者の状況報告を行い、そこで得た情報を元にサービスに努めている。	住民代表、市の職員、家族代表、職員代表などの参加があり、意見交換や情報提供、ホームの様子などの報告などを行い、会議で得た情報や意見を職員で共有しサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議の場や電話で情報交換、相談をしている。月に一回は市委託の相談員に意見を聞いて改善している。	市職員とは運営推進会議の他、日頃の電話連絡等を通し、相談を密にしている。また、月に1度は市委託の介護相談員の訪問があり意見を聞いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の禁止を理解しており拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていないので自由に入りができるようにしている。夜間(19時～7時30分)は施錠している。	拘束に関して委員会があり、勉強会を通しスタッフ全員拘束に関する理解を深めるよう努めている。現在拘束は無く、必要がありそうな場合でも、出来る限り拘束以外の方法がないか検討する、スタッフの意識もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、勉強会で虐待について再度確認を行い、現場においても職員同士注意するようにしている。言葉使いにも十分注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	集団指導や研修会に参加して理解を深めている。職員にも勉強会等で理解してもらうように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明し、不安、疑問がないか確認しながら理解・納得をしてもらうようしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し自由に意見が書けるようにしている。面会時に利用状況を説明し家族の意見も聞いている。入居者には話しやすい雰囲気をつくり対応している。介護相談員にも話せる場を提供している。	意見箱の設置の他、面会時には話しやすい雰囲気づくりに努め意見を言いやすいようにしている。意見は連絡ノートを活用し、スタッフ全員で共有しサービス向上に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会で職員の意見交換を行い、問題点、改善点を話し合い、運営に反映している。毎日の申し送り時にも意見を言える場としている。	会議や勉強会など、スタッフが集まる機会を利用し、意見を聞くようにしている。また、普段から管理者、スタッフ間で意見を交わす関係が出来ており、サービスに反映されるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の規定により、給与等が定められており、各自が向上心に繋がる目標をあげ、目標に向かいやりがいのある職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けており、各自の力量や本人の希望等で受講でき職員としての資質向上に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集団指導時や研修会等で情報交換を行いサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望や不安を良く聞き取り、時間をかけて、観察し信頼関係を作り安心して生活されるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安なことを良く聞き取り本人が安心して生活されるように支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意見を聞き取り、状態に応じたサービス計画書を作成し説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に対して感謝の気持ちをもって、自室の掃き掃除、シーツ交換、洗濯たたみ等出来る範囲の手伝いをさせていただいて共に支えあう関係をきずいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時に日常生活の様子を報告し家族の意向を聞き共に本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	何時でも面会ができ、ゆっくりできる場を提供し、関係が途切れないように努めている。ドライブでは自宅に行き、思い出して頂いた。	知り合いの面会時には落ち着いて話せるような場所の提供や、コミュニケーションの支援を適切に行い、また来てもらえるような配慮を行っている。また、以前利用していた店、床屋なども家族の協力で行く機会を作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、体操等への参加を呼びかけ入居者同士が話し合える関係づくりをしている。トラブルになりそうな時は、職員間の連携で防ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、関係や家族からの聞き取りを行い、相談に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や考えていることを傾聴して希望に沿った暮らしの提供をしている。	日頃の関わりの中で、本人にとってどのような生活がよいのか、本人主体で考え支援している。また、本人と話す時間もゆっくりとるように心がけ、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、面会者から生活歴や暮らし方を聞き取り、本人の希望に沿ったサービスにつとめており使い慣れた私物を使用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り、介護記録、職員連絡ノート等で一人ひとりの一日の過ごし方を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聞き担当者会議、勉強会等で話し合い、検討し計画書を作成し、評価している。	担当スタッフが中心になり、家族、かかりつけ医、関係職員の意見を参考に原案を作成し、ホーム内で検討し計画作成している。また、状態に応じ評価期間を設定し評価しているが、アセスメントの記録が十分とは言えない。	計画更新時期のアセスメントの記録を整備し、更に現状に即した計画づくりとなるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや状態等をこまめに記録し職員同士申し送りしている。勉強会等でカンファレンスを行い本人にあった介護計画に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養を母体施設としているので、ニーズにより対応できるように整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り等に地域の方々の参加が多数あり顔なじみの方との交流を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医を持ち、往診や受診を受けられるように支援している。24時間体制の協力医療体制も整えている。	ホームのかかりつけ医に変更希望がある場合を除き、各自のかかりつけ医の受診を継続している。受診時は家族の協力を仰ぎながら、緊急時はホームでの対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に特養の看護師と関わりを持ち、入居者の受診が必要な場合は、かかりつけ医へ連絡し受診が行える体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は、面会を行い、ソーシャルワーカー、看護師、医師との情報交換を行い退院にむけてと支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特養を母体施設として、状況に応じたサービスの提供が出来るように支援している。重度化等により他の支援が必要な場合は家族、かかりつけ医に相談しながら対応を決定している。パンフレットに記載している。	重度化、終末期の対応については、入居時に家族と話し合い、確認している。事業所として出来る範囲の事を行いながら、実際の場面では家族、かかりつけ医、関係機関と連携を取りながら対応するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し勉強会や日々の介護で確認している。急変時対応等の研修に参加して学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を定め消防計画書を消防署に提出している。消防計画書をもとに、年2回以上の消防訓練及び、防火訓練を実施している。玄関に避難経路を提示している。	法人と合同、ホーム単独でそれぞれ訓練をしており、避難手順書を参考に、全スタッフが対応を把握できるようにしている。緊急連絡網も整備しておりスムーズに連絡できるようにしている。しかし、地域との協力体制は十分とまでには至っていない。	避難訓練の様子やホーム内部を、地域の方に見てもらうなど、さらなる協力体制の構築が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の一人ひとりの性格を把握しており、各自に適応した言葉かけをおこなっている。プライバシーにも、十分な配慮を行い、人格を尊重した対応を行っている。	入居者各個人の性格や意向を把握し、それぞれを尊重するような働きかけを心がけている。また、失敗などに対し助言する際など、尊厳を損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を傾聴して、自己決定ができるように働きかけ、希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	臥床、起床時間、入浴等は本人の要望を優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族付き添いの出来る方は、行きつけの美容室を利用され、他の方は訪問理容を利用されており身だしなみはできている。衣類等も自分の好きな物を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自に適応した食事形態や好みをとりにしている。下膳の出来る方はして頂いている。荘の畑で出来た野菜を使い季節感を味わって頂いている。	献立を担当する栄養士が、好みを聞くなどし食事が楽しみになるようにしている。また、畑で採れたものをホームで調理したり、誕生日など特別な日には、家族協力などを得ながら、楽しく食事ができる様工夫がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立であるので、栄養のバランスは摂れている。水分量も一度で困難な時は時間をかけて摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯の洗浄、歯磨きを出来る範囲ですて頂き、仕上げは職員が行い清潔に努めている。うがいには、抗菌作用に緑茶を使っている。週一、又は必要時ポリデント消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をしており、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけを行い、介助している。オムツ使用者は定時、必要時にオムツ交換を行っている。	個別の排泄パターンを把握し、居室トイレの活用、声掛け誘導にて排泄の自立を促している。また、オムツ使用も夜間だけの必要最小限にできる様努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操、機能訓練を毎日行っており、天候をみて散歩をし、体を動かす事に努め、水分摂取もこころがけている。腹部膨満ある時はマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望、体調に合わせて実施している。拒否のある時は、時間をずらしたり、声かけに配慮している。無理には、行っていない。	毎日入浴でき、個人の希望に応じ入浴の支援を行っている。拒否がある際にも、しっかり話を聞きタイミングをずらすなどし対応している。また、入浴剤なども使用し、楽しく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子をみながら、声かけを行い、状況、希望に応じて休息してもらっている。自分で可能な方は、好きな時に休まれている。室温にも配慮しており希望を聞いて調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬の説明書をファイルに綴じており、投薬時は、職員二人で声かけして間違いがないか確認している。異常があれば、主治医に報告して、早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方は自室の掃き掃除、シーツの交換、洗濯物たたみを職員と共にしている。歌の好きな方にはリードをとってもらい、皆さんで楽しんで頂いている。季節事の行事、誕生会など行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前に担当者が計画をたてドライブ、買い物を行っている。本人の希望で自宅にも寄り喜ばれている、希望される方は外泊もしている。天候を見て、散歩等で気分転換を図っている。	外出の希望時には、その都度散歩などの外出支援をしている。また、畑の見えるベランダに出て、部屋にこもりきりにならないようにしている。その他、花見や誕生日に外泊など、家族協力のもと外出できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持されている方が一人おられる。まだ入居されたばかりで、買い物等の希望はあっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿って電話などを利用し、家族・友人達に連絡が出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんどの入居者が居間で話したりテレビを見て過ごされている為、椅子やソファの配置に気を配っている。季節感を感じられる花を飾ったり、ホームの庭には、野菜や花を育てているのでいつでも見ることができる。	沢山飾られた写真や花で、季節を感じる事が出来る。また、入居者で作成した貼り絵などがあり、楽しい雰囲気がある。共用空間は掃除も行き届き、温度湿度管理も行われ、快適に過ごす事が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ゆったりと座れるソファやテレビがあり、他の入居者と一緒に過ごすスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れた品物や見慣れた品を持参してもらい、本人が安心して生活することが出来るよう支援している。仏様を持ち込まれお茶とお水を毎日変えられ家と同様な生活を送られている。	持ち込みの制限はせず、使い慣れたものを何でも持って来て貰うようにしている。茶碗や湯飲み、テーブルや布団などを持ってこられ、自宅となるべく近い環境で生活できるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリーとなっている。玄関は、スロープになっており、廊下、トイレ、お風呂には、手摺りを設置してあり安全に生活出来るようになっている。		